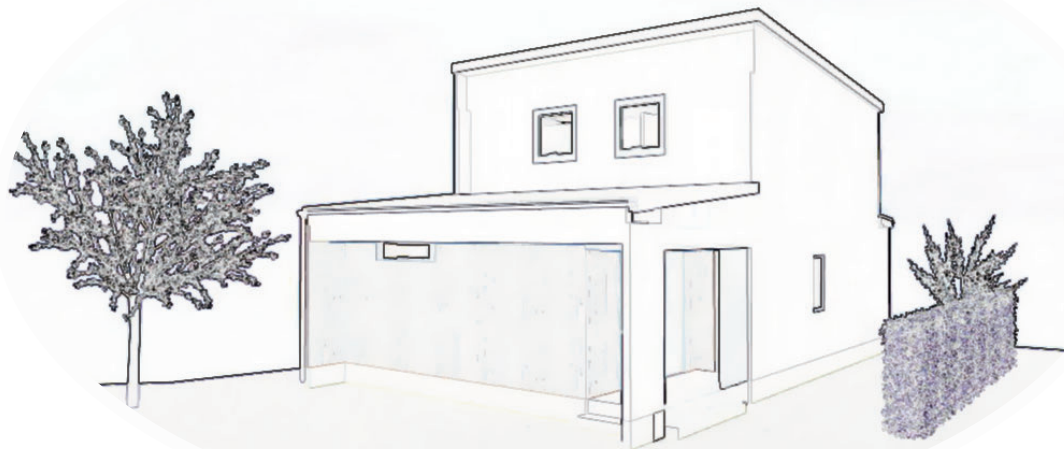


# open house

2022

3/ 4.5.6

10:00-16:00



主催：R+house御殿場/R+house三島/R+house沼津・伊東

建築家プロフィール



島崎 衛 (しまざき まもる)

然帯 SAoBi Architects

<https://sa-obi.com/>

快適に過ごせる家は、機能的であること、デザインがよいことはもちろん。

敷地が持つポテンシャルを感じて頂けるような暮らしの中心に何か大きなテーマがある、

そんな住まいを提案したいと考えました。

実際に敷地を見て感じたのは、目の前に広がる豊かな田園風景と

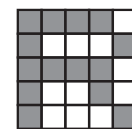
何よりその大きな「空」でした。

青空、星空、夕焼け空、曇天、嵐・・・空もいろいろ。

多彩の空模様と同じく家族の情景もさまざまあるはず。

ふと吹き抜けに目を向ければ空が見え、日々暮らす家族を想う。

そんな気持ちを込めて設計しました。



建築家と建てる家を、身近に、手軽に

**R+house**

# R+houseが選ばれる3つの魅力

## ①高気密・高断熱

### 高断熱の指標となる「UA値」

住宅の断熱性は「UA値」という指標で表されます。

この数字が小さいほど熱が逃げにくい“高断熱な家”になります。

R+houseのUA値は、日本の断熱化基準である「省エネ基準」(4~6地域=東北の一部~九州の一部での等級4)を大きく上回っています。

UA値	等級4		R+houseの一例
	4地域	5,6地域	
	0.75 W/m <sup>2</sup> ・K	0.87 W/m <sup>2</sup> ・K	0.46 W/m <sup>2</sup> ・K

### 高気密の指標となる「C値」

住宅の気密性は「C値」という実際に測る指標で表されます。

C値は床面積1㎡あたりの隙間面積 (cm<sup>2</sup>) で示され、数字がゼロに近いほど隙間の少ない“高気密な家”になります。

これまでの日本の目標は5.0 (cm<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>)。

それに対してR+houseの標準は、1.0 (cm<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>) 以下です。

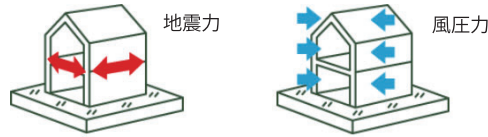
※実測にて計測いたします。



## ②耐震性

### 建築士の厳密なチェック

R+houseのすべての住宅は、構造専門の建築士が、その耐震性をさまざまな角度から厳密にチェックしています。



### “面”全体で力を支えるパネル工法

R+houseはオリジナルのR+パネルで“面”全体を支える「パネル工法」を用いています。

面全体で力を支えるので力が分散し、横からの強い力にも耐えることができます。

【全棟構造計算・耐震等級3】標準



## ③コストパフォーマンス

R+houseでは高性能住宅を手の届く価格で提供するために独自のルールを設けています。

その範囲内で建築家が設計することで、高品質でありながらも手の届く価格を実現しています。

例えば、部材においてはメーカー直接発注により仕入れ価格を大幅に削減。

長く使用できる材料を採用することで、メンテナンスコストの削減にも取り組んでいます。

無駄なコストを極限まで省く様々な工夫を施しています。

## 建物 DATA

延床面積 110.81 m<sup>2</sup> ( 33.51 坪 )

1F 71.21 m<sup>2</sup> ( 21.54 坪 )

2F 39.60 m<sup>2</sup> ( 11.97 坪 )

構造 木造軸組みパネル工法

UA値 0.44

C値 0.25

24h全熱交換換気システム「澄家」採用 (熱交換率 90%)

UFB DUAL採用 (ウルトラファインバブル)

耐震等級3 耐風等級2 性能向上計画認定住宅

## UFB イメージ



お申し込みはこちら

Web予約はこちら

R+house 御殿場 〒412-0043 御殿場市新橋 385 岳南建設 (株)

0120-0550-72

rplus-gotemba

検索

